

第15回 設楽ダム猛禽類検討会 議事概要

日 時：平成27年10月28日（水） 15:00～17:20

1. 猛禽類検討会の経緯

- ・これまでの検討経緯、前回検討会の指摘事項について確認した。

2. 平成27年繁殖シーズンの調査結果について

- ・クマタカ3ペアは繁殖していないことを報告した。
- ・近年クマタカは隔年で繁殖していることを報告した。
- ・クマタカ3ペアについて従来のコアエリアや繁殖テリトリーから、いずれも大きな変化はないと考えられることを報告した。
- ・サシバ2ペアが繁殖していることを報告した。

3. 平成27年繁殖シーズンのモニタリング結果の評価について

- ・クマタカAペアのコアエリア内における工事監視調査を行った結果、工事騒音の予測値と実測値に大きな差はなかったこと、クマタカが異常な反応を示さなかったことを報告した。
- ・クマタカBペアの営巣木近傍で埋蔵文化財調査の範囲確認調査を実施したが平成27年繁殖シーズンの定点調査時にクマタカが作業に反応している様子がなかったこと、過去にもモニタリングを行いながら施工した実績から影響が見られなかったことを報告した。

4. 平成28年繁殖シーズンの調査計画（案）について

- ・クマタカ調査計画（案）およびその他の猛禽類調査計画（案）を報告した。
- ・環境影響評価書とりまとめ以降データが蓄積されたため、平成28年繁殖シーズンの調査後にコアエリア、繁殖テリトリーの見直しを検討することとした。
- ・クマタカCペアで巣材運搬がみられたため、平成28年繁殖シーズンには巣材運搬した方角に注意し調査を実施することとした。
- ・クマタカの繁殖がなかったと判断した場合でも、繁殖している可能性もあるため、予備的な調査の継続を検討することとした。

5. クマタカへの環境保全措置の対応方針について

- ・今後、当面予定している工事はコアエリア外であること。埋蔵文化財調査の範囲確認調査は、過去にモニタリングを行いながら施工した実績から影響が見られなかった調査と同程度以下であること。埋蔵文化財調査の本調査は、繁殖に影響を与える時期以外に調査予定としていること。以上から、通常定点調査を実施することで了解された。
- ・工事騒音を発生源で小さくするような最新の施工技術については、工事施工者からの提案を求めることを報告した。
- ・継続的に発生する工事車両の通行騒音を予測検討することとした。
- ・騒音予測は、実使用機械の騒音予測で検討することとした。
- ・工事に使用する建設機械の音を徐々に大きくすることにより、クマタカが騒音に対し順応することも考えられる。そのため、建設機械がそのように施工することが可能か確認することとした。

6. その他

- ・UAVを活用した繁殖巣の確認実験の検討結果を報告した。
- ・後日、委員による現地視察を行うこととした。

以上。